

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	無期限（2000年5月2日設定）	
運用方針	主として、グロースマザーファンド受益証券に投資し、RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスをベンチマークとして、中長期的に同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。マザーファンド受益証券の組入比率は原則として高位を維持することとします。	
主要運用対象	ベビーファンド	グロースマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。このほか、当ファンドで直接投資することがあります。
	マザーファンド	わが国の金融商品取引所に上場されている株式および店頭登録株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	ベビーファンド	株式への実質投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。
	マザーファンド	株式への投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。	

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。
 ※公募株式投資信託は税法上、「NISA（少額投資非課税制度）およびジュニアNISA（未成年者少額投資非課税制度）」の適用対象です。
 詳しくは販売会社にお問い合わせください。

運用報告書（全体版）

日本株スタイルセレクトオープン

愛称：ビッグ・ウィング・ワン

三菱UFJ
スタイルセレクト・
グロースファンド

愛称：飛躍

第45期（決算日：2023年3月10日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
 さて、お手持ちの「三菱UFJスタイルセレクト・グロースファンド」は、去る3月10日に第45期の決算を行いました。ここに謹んで運用状況をご報告申し上げます。
 今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。



三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
 ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客様専用
フリーダイヤル **0120-151034**
 （受付時間：営業日の9:00～17:00、
土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く）

お客様のお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額			RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス		株式組入比率	株式先物比率	純資産額
	(分配落)	税込分配金	期中騰落率	騰落	騰落率			
	円	円	%		%	%	%	百万円
41期(2021年3月10日)	10,451	500	26.5	214.08	15.0	95.1	—	1,766
42期(2021年9月10日)	11,333	350	11.8	240.26	12.2	98.5	—	1,795
43期(2022年3月10日)	8,886	0	△21.6	195.63	△18.6	97.4	—	1,351
44期(2022年9月12日)	9,390	0	5.7	207.37	6.0	98.2	—	1,391
45期(2023年3月10日)	9,566	0	1.9	205.50	△0.9	97.6	—	1,379

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスは、RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスを構成するインデックスの一つです。RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスは、わが国の全金融商品取引所全上場銘柄の全時価総額（時価総額は全て安定持株控除後）の98%超をカバーするRUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスのうち、高修正PBR銘柄により構成されています。RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスは、Frank Russell Companyと野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社で作成している株価指数で、当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は両社に帰属します。なお、両社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス		株式組入比率	株式先物比率
	騰落	騰落率	騰落	騰落率		
(期首)	円	%		%	%	%
2022年9月12日	9,390	—	207.37	—	98.2	—
9月末	8,599	△8.4	191.12	△7.8	96.6	—
10月末	9,281	△1.2	201.51	△2.8	97.7	—
11月末	9,506	1.2	206.87	△0.2	98.0	—
12月末	8,702	△7.3	193.36	△6.8	96.5	—
2023年1月末	9,343	△0.5	203.13	△2.0	98.2	—
2月末	9,334	△0.6	201.69	△2.7	97.1	—
(期末)						
2023年3月10日	9,566	1.9	205.50	△0.9	97.6	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

運用経過

第45期：2022年9月13日～2023年3月10日

当期中の基準価額等の推移について

基準価額等の推移



第45期首	9,390円
第45期末	9,566円
既払分配金	0円
騰落率	1.9%

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の動き

基準価額は期間の初めに比べ1.9%の上昇となりました。

ベンチマークとの差異

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率（-0.9%）を2.8%上回りました。

基準価額の主な変動要因**上昇要因**

インフレや金融政策を巡る過度な懸念が一服したことや中国経済の回復期待などを背景に国内株式市況が一時的に上昇したこと、堅調な決算を発表した組入銘柄の株価上昇などが、基準価額の上昇要因となりました。

下落要因

日銀の金融政策修正を受けて国内金利が上昇したことや米国の景気先行きへの懸念などから国内株式市況が下落したことが、一時的な基準価額の下落要因となりました。

銘柄要因

上位5銘柄・・・ベйкаレント・コンサルティング、アドバンテスト、Sansan、ルネサスエレクトロニクス、ソニーグループ

下位5銘柄・・・リクルートホールディングス、デクセリアルズ、オリンパス、コナミグループ、エムスリー

第45期：2022年9月13日～2023年3月10日

投資環境について

▶ 国内株式市況

国内株式市況は下落しました。

期間の初めから2022年11月下旬にかけては、世界的なインフレ動向や金融政策の先行きに対する見方に左右され、国内株式市況は一進一退の動きとなりました。12月上旬から下旬にかけては、日銀の金

融政策修正を受けて国内金利が上昇したことや米国の景気先行きへの懸念などからグロース株を中心に大きく下落しました。

2023年1月上旬から期間末にかけては、中国経済の回復期待などを背景に上昇基調で推移しました。

当該投資信託のポートフォリオについて

▶ 三菱UFJ スタイルセレクト・グロースファンド

グロースマザーファンド受益証券を通じてわが国の株式に投資しています。株式実質組入比率は、運用の基本方針にしたがい高位水準を維持しました。

▶ グロースマザーファンド

個別銘柄の選別においては、企業が置かれている事業環境、競争力、マネジメント力等に注目し、将来の成長が期待でき

る企業を中心に投資を行いました。

組入銘柄数は概ね58～60銘柄程度で推移させました。ファンダメンタルズの変化や新規投資候補銘柄との相対比較等を勘案し、適宜銘柄入れ替えを行いました。

当期間では、FOOD & LIFE COMPANIESやワンキャリアなど6銘柄を新規に組み入れました。一方、富士フィルムホールディングスや日本新薬など7銘柄を全株売却しました。

当該投資信託のベンチマークとの差異について

三菱UFJ スタイルセレクト・グロースファンド

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率（-0.9%）を2.8%上回りました。

マザーファンド保有以外の要因

信託報酬等のコストがマイナス要因となりました。

マザーファンド保有による要因

プラス要因

業種配分要因：その他製品や陸運業をベンチマークに対してアンダーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

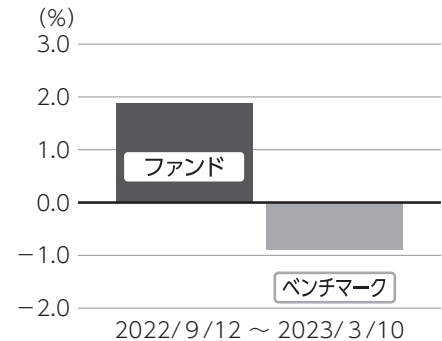
銘柄選択要因：ベikalレント・コンサルティングやS a n s a nをベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

マイナス要因

業種配分要因：食料品や繊維製品をベンチマークに対してアンダーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。

銘柄選択要因：富士電機やデクセリアルズをベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。

基準価額（ベビーファンド）とベンチマークの対比（騰落率）



分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項目	第45期 2022年9月13日～2023年3月10日
当期分配金（対基準価額比率）	－（－％）
当期の収益	－
当期の収益以外	－
翌期繰越分配対象額	2,313

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針 (作成対象期間末での見解です。)

▶三菱UFJ スタイルセレクト・グロースファンド

今後もグロースマザーファンド受益証券を高位に組み入れる方針です。

▶グロースマザーファンド

企業の中長期成長性が高いことを重視しています。銘柄選定にあたっては、企業の業績成長の大きなドライバーとなりえる経済の構造的な変化などに留意するとともに、個別企業の事業自体の競争力やマネジメントのクオリティなどに着目します。株価変動によるバリュエーションの水準、中長期的な成長性や事業リスク、流動性などを考慮しながら組入比率の調整や新規銘柄への入れ替えを検討していく方針です。

当面の株式市況は、日米の金融政策や景況感に左右される神経質な展開を想定します。米国のインフレ動向とそれに対応

した金融政策の方向性については、金融市場に与える影響が大きいため慎重に動向を見極める必要があると考えています。また、これまで積極的に利上げを続けてきた影響が実体経済にどのように表れてくるのか、といった点にも注目しています。一方、国内に関しては、コロナ禍からの正常化による消費や投資の回復などが国内企業業績への追い風として期待できると考えます。引き続き不透明感が強く株式市況の変動性が高い展開が続いていますが、こうした局面においては本来の企業価値から大きく乖離したと思われる株価形成がなされることも多く、徹底したリサーチにより大きな超過収益をもたらす企業を発掘する有望な機会であると捉えています。このような想定の下、業績を精査し中長期的な成長確度の高い銘柄の発掘に注力し、運用パフォーマンスの向上に努める方針です。

2022年9月13日～2023年3月10日

1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	85	0.917	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (期中の日数 ÷ 年間日数)
(投 信 会 社)	(40)	(0.432)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(40)	(0.432)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(5)	(0.054)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	4	0.039	(b) 売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 ÷ 期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
(株 式)	(4)	(0.039)	
(c) その他費用	0	0.001	(c) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.001)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合 計	89	0.957	

期中の平均基準価額は、9,228円です。

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

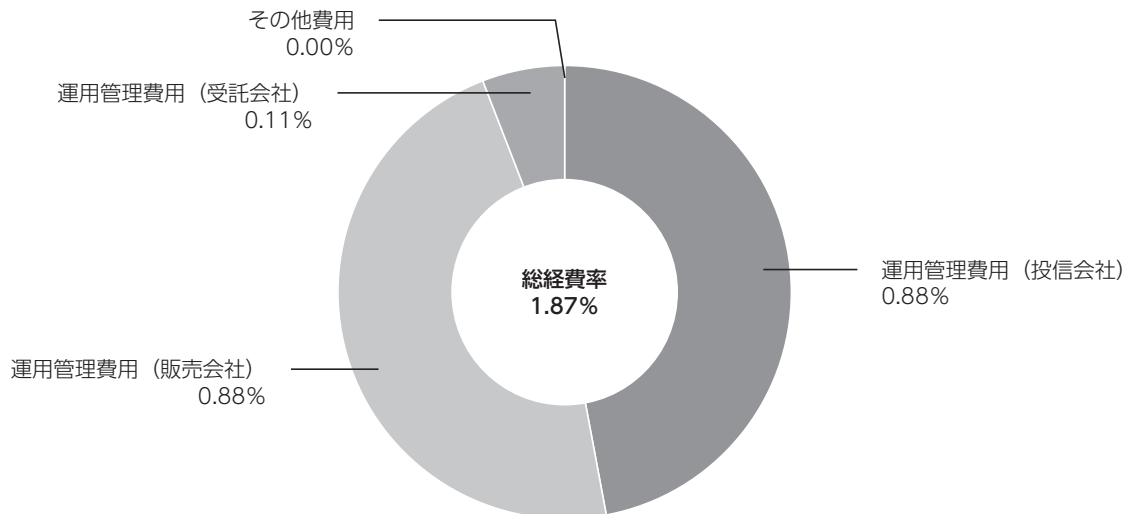
(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

■ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.87%**です。



(注) 費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2022年9月13日～2023年3月10日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
グロースマザーファンド	千口 173	千円 256	千口 33,607	千円 50,288

○株式売買比率

(2022年9月13日～2023年3月10日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期	
	グロースマザーファンド	
(a) 期中の株式売買金額	1,244,740千円	
(b) 期中の平均組入株式時価総額	2,224,292千円	
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.55	

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2022年9月13日～2023年3月10日)

利害関係人との取引状況

<三菱UFJ スタイルセレクト・グロースファンド>

該当事項はございません。

<グロースマザーファンド>

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
株式	百万円 635	百万円 104	% 16.4	百万円 608	百万円 93	% 15.3

平均保有割合 58.3%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	525千円
うち利害関係人への支払額 (B)	89千円
(B) / (A)	17.1%

(注) 売買委託手数料総額は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJモルガン・スタンレー証券、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

○組入資産の明細

(2023年3月10日現在)

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
グロースマザーファンド	920,133	886,699	1,378,196

○投資信託財産の構成

(2023年3月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
グロースマザーファンド	1,378,196	98.9
コール・ローン等、その他	15,764	1.1
投資信託財産総額	1,393,960	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2023年3月10日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	1,393,960,173
コール・ローン等	15,624,362
グロースマザーファンド(評価額)	1,378,196,381
未収入金	139,430
(B) 負債	14,464,312
未払解約金	2,058,496
未払信託報酬	12,386,918
未払利息	15
その他未払費用	18,883
(C) 純資産総額(A-B)	1,379,495,861
元本	1,442,152,072
次期繰越損益金	△ 62,656,211
(D) 受益権総口数	1,442,152,072口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,566円

<注記事項>

- ①期首元本額 1,482,065,021円
 期中追加設定元本額 478,363円
 期中一部解約元本額 40,391,312円
 また、1口当たり純資産額は、期末0.9566円です。

②純資産総額が元本額を下回っており、その差額は62,656,211円です。

③分配金の計算過程

項 目	2022年9月13日～ 2023年3月10日
費用控除後の配当等収益額	5,075,245円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	-円
収益調整金額	2,785,778円
分配準備積立金額	325,819,711円
当ファンドの分配対象収益額	333,680,734円
1万口当たり収益分配対象額	2,313円
1万口当たり分配金額	-円
収益分配金金額	-円

*三菱UFJ国際投信では本資料のほかに当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ (<https://www.am.mufg.jp/>) をご覧ください。

○損益の状況 (2022年9月13日～2023年3月10日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 1,815
受取利息	47
支払利息	△ 1,862
(B) 有価証券売買損益	37,588,568
売買益	38,620,025
売買損	△ 1,031,457
(C) 信託報酬等	△ 12,405,801
(D) 当期繰越損益金(A+B+C)	25,180,952
(E) 前期繰越損益金	39,484,712
(F) 追加信託差損益金	△127,321,875
(配当等相当額)	(2,785,533)
(売買損益相当額)	(△130,107,408)
(G) 計(D+E+F)	△ 62,656,211
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	△ 62,656,211
追加信託差損益金	△127,321,875
(配当等相当額)	(2,785,778)
(売買損益相当額)	(△130,107,653)
分配準備積立金	330,894,956
繰越損益金	△266,229,292

(注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

グロースマザーファンド

《第45期》決算日2023年3月10日

[計算期間：2022年9月13日～2023年3月10日]

「グロースマザーファンド」は、3月10日に第45期の決算を行いました。

以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第45期の運用状況をご報告申し上げます。

運 用 方 針	RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスをベンチマークとし、中長期的に同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。わが国の金融商品取引所に上場されている株式および店頭登録株式の中から、将来の成長が期待できる銘柄に投資します。銘柄選定にあたっては、ファンドマネジャーおよび当社アナリストの企業訪問調査をベースにした、企業の定性評価（企業が置かれている事業環境、競争力、マネジメント力等に注目します。）を重視します。株式の組入比率は原則として高位を維持することとします。
主要運用対象	わが国の金融商品取引所に上場されている株式および店頭登録株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	株式への投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。

○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額		RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率	純 資 産 額
	期 騰 落	中 率	期 騰 落	中 率			
	円	%		%	%	%	百万円
41期(2021年3月10日)	15,868	27.9	214.08	15.0	97.2	—	2,399
42期(2021年9月10日)	17,916	12.9	240.26	12.2	98.7	—	2,698
43期(2022年3月10日)	14,171	△20.9	195.63	△18.6	97.6	—	2,030
44期(2022年9月12日)	15,121	6.7	207.37	6.0	98.2	—	2,299
45期(2023年3月10日)	15,543	2.8	205.50	△0.9	97.7	—	2,401

(注) RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスは、RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスを構成するインデックスの一つです。RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスは、わが国の全金融商品取引所全上場銘柄の全時価総額（時価総額は全て安定持株控除後）の98%超をカバーするRUSSELL/NOMURA Total Marketインデックスのうち、高修正PBR銘柄により構成されています。RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスは、Frank Russell Companyと野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が作成している株価指数で、当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は両社に帰属します。なお、両社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率
	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率		
(期 首) 2022年 9 月12日	円	%		%	%	%
	15,121	—	207.37	—	98.2	—
9 月末	13,857	△8.4	191.12	△7.8	96.8	—
10 月末	14,981	△0.9	201.51	△2.8	97.7	—
11 月末	15,369	1.6	206.87	△0.2	98.3	—
12 月末	14,088	△6.8	193.36	△6.8	96.8	—
2023年 1 月末	15,151	0.2	203.13	△2.0	98.2	—
2 月末	15,157	0.2	201.69	△2.7	97.3	—
(期 末) 2023年 3 月10日						
	15,543	2.8	205.50	△0.9	97.7	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○運用経過

●当期中の基準価額等の推移について

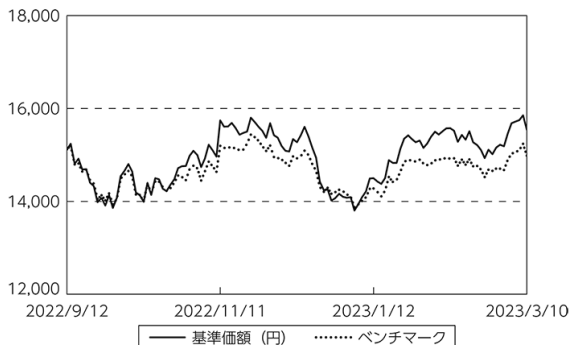
◎基準価額の動き

基準価額は期間の初めに比べ2.8%の上昇となりました。

◎ベンチマークとの差異

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率(−0.9%)を3.7%上回りました。

基準価額等の推移



(注) ベンチマークは期首の値をファンド基準価額と同一になるよう指数化しています。

●基準価額の主な変動要因

(上昇要因)

インフレや金融政策を巡る過度な懸念が一服したことや中国経済の回復期待などを背景に国内株式市況が一時的に上昇したこと、堅調な決算を発表した組入銘柄の株価上昇などが、基準価額の上昇要因となりました。

(下落要因)

日銀の金融政策修正を受けて国内金利が上昇したことや米国の景気先行きへの懸念などから国内株式市況が下落したことが、一時的な基準価額の下落要因となりました。

(銘柄要因)

上位5銘柄…「ベイカレント・コンサルティング」、「アドバンテスト」、「Sansan」、「ルネサスエレクトロニクス」、「ソニーグループ」
下位5銘柄…「リクルートホールディングス」、「デクセリアルズ」、「オリンパス」、「コナミグループ」、「エムスリー」

●投資環境について

◎国内株式市況

- ・国内株式市況は下落しました。
- ・期間の初めから2022年11月下旬にかけては、世界的なインフレ動向や金融政策の先行きに対する見方に左右され、国内株式市況は一進一退の動きとなりました。
- ・12月上旬から下旬にかけては、日銀の金融政策修正を受けて国内金利が上昇したことや米国の景気先行きへの懸念などからグロース株を中心に大きく下落しました。
- ・2023年1月上旬から期間末にかけては、中国経済の回復期待などを背景に上昇基調で推移しました。

●当該投資信託のポートフォリオについて

- ・個別銘柄の選別においては、企業が置かれている事業環境、競争力、マネジメント力等に注目し、将来の成長が期待できる企業を中心に投資を行いました。
- ・組入銘柄数は概ね58～60銘柄程度で推移させました。ファンダメンタルズの変化や新規投資候補銘柄との相对比较等を勘案し、適宜銘柄入れ替えを行いました。
- ・当期間では、「FOOD & LIFE COMPANIES」や「ワンキャリア」など6銘柄を新規に組み入れました。一方、「富士フィルムホールディングス」や「日本新薬」など7銘柄を全株売却しました。

●当該投資信託のベンチマークとの差異について (プラス要因)

- ・業種配分要因：その他製品や陸運業をベンチマークに対してアンダーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。
- ・銘柄選択要因：「バイカレント・コンサルティング」や「Sansan」をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

(マイナス要因)

- ・業種配分要因：食料品や繊維製品をベンチマークに対してアンダーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。
- ・銘柄選択要因：「富士電機」や「デクセリアルズ」をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。

○今後の運用方針

- ・企業の中長期成長性が高いことを重視していません。銘柄選定にあたっては、企業の業績成長の大きなドライバーとなりえる経済の構造的な変化などに留意するとともに、個別企業の事業自体の競争力やマネジメントのクオリティなどに着目します。株価変動によるバリュエーションの水準、中長期的な成長性や事業リスク、流動性などを考慮しながら組入比率の調整や新規銘柄への入れ替えを検討していく方針です。
- ・当面の株式市況は、日米の金融政策や景況感に左右される神経質な展開を想定します。米国のインフレ動向とそれに対応した金融政策の方向性については、金融市場に与える影響が大きいため慎重に動向を見極める必要があると考えています。また、これまで積極的に利上げを継続してきた影響が実体経済にどのように表れてくるのか、といった点にも注目しています。一方、国内に関しては、コロナ禍からの正常化による消費や投資の回復などが国内企業業績への追い風として期待できると考えます。引き続き不透明感が強く株式市況の変動性が高い展開が続いていますが、こうした局面においては本来の企業価値から大きく乖離したと思われる株価形成がなされることも多く、徹底したリサーチにより大きな超過収益をもたらす企業を発掘する有望な機会であると捉えています。このような想定の下、業績を精査し中長期的な成長確度の高い銘柄の発掘に注力し、運用パフォーマンスの向上に努める方針です。

○1万口当たりの費用明細

(2022年9月13日～2023年3月10日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	円 6 (6)	% 0.039 (0.039)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
合 計	6	0.039	
期中の平均基準価額は、14,928円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2022年9月13日～2023年3月10日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国	上場	千株	千円	千株	千円
内		186	635,825	218	608,915
		(33)	(-)		

(注) 金額は受渡代金。

(注) ()内は株式分割・増資割当および合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○株式売買比率

(2022年9月13日～2023年3月10日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	1,244,740千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	2,224,292千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.55

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2022年9月13日～2023年3月10日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$ %	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$ %
株式	百万円 635	百万円 104	16.4	百万円 608	百万円 93	15.3

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	894千円
うち利害関係人への支払額 (B)	152千円
(B) / (A)	17.0%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJモルガン・スタンレー証券、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

○組入資産の明細

(2023年3月10日現在)

国内株式

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
食料品 (1.3%)			
サントリー食品インターナショナル	6.6	6.1	30,073
化学 (9.0%)			
J S R	8	11.5	36,857
トリケミカル研究所	—	8.3	20,658
日本ペイントホールディングス	12	47.2	56,215
富士フイルムホールディングス	4	—	—
資生堂	6.5	7	43,197
デクセラアルズ	9.5	3.6	9,770
ユニ・チャーム	7.2	8.7	44,161
医薬品 (7.5%)			
日本新薬	3	—	—
そーせいグループ	11.1	20.5	50,430
第一三共	32.5	28.2	124,587
ガラス・土石製品 (—%)			
MARUWA	1	—	—
金属製品 (0.1%)			
SUMCO	15	1	1,932
機械 (6.8%)			
SMC	1	0.8	56,888
ダイキン工業	3.2	3.3	77,913
I H I	2.5	7	24,360
電気機器 (26.7%)			
イビデン	7.6	12.7	62,039
日立製作所	9.2	8.5	59,925
富士電機	11.7	7	36,610
安川電機	4.7	—	—
日本電産	1.7	0.2	1,364
ルネサスエレクトロニクス	26	34	62,441
ソニーグループ	10.6	10.7	125,190
メイコー	2.2	—	—
アドバンテスト	2.7	4.8	54,720
キーエンス	2.1	2	120,340
レーザーテック	0.2	0.2	4,245
東京エレクトロン	1.6	2.1	100,863
輸送用機器 (3.0%)			
デンソー	3.1	2.9	21,886
トヨタ自動車	0.2	0.2	379
スズキ	5.9	10	48,890

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
精密機器 (4.0%)			
テルモ	8.1	1	3,588
オリンパス	12.8	2.5	5,968
HOYA	3	3.4	48,433
朝日インテック	18	15.5	36,471
その他製品 (0.9%)			
SHOEI	3.8	3.8	20,938
情報・通信業 (22.4%)			
テクマトリックス	4	—	—
GMOペイメントゲートウェイ	4.2	4.7	52,170
インターネットイニシアティブ	8.3	18.8	50,985
マネーフォワード	2.6	6.2	28,520
プラスアルファ・コンサルティング	—	7.5	22,950
Appier Group	10	10	18,670
ビジョナル	7.1	8.3	74,617
ワンキャリア	—	8.2	36,654
ラクスル	1	23	38,318
メルカリ	1.5	6	14,814
Sansan	59.5	66	106,788
Zホールディングス	30	5	1,851
日本電信電話	5.5	1.3	5,181
エヌ・ティ・ティ・データ	19.5	6	10,722
スクウェア・エニックス・ホールディングス	4.9	4.2	26,418
コナミグループ	7.3	5.8	36,598
卸売業 (1.1%)			
伊藤忠商事	—	6	25,698
小売業 (6.6%)			
ネクステージ	11	8.5	24,573
FOOD & LIFE COMPANIE	—	12.9	47,343
パン・パシフィック・インターナショナルホ	20.5	18.5	47,952
丸井グループ	5.7	0.7	1,498
ファーストリテイリング	0.5	1.2	34,482
サービス業 (10.6%)			
エムスリー	4.4	2	6,530
セブテーニ・ホールディングス	50.4	—	—
オリエンタルランド	1.6	2.5	55,300
フルキャストホールディングス	16.5	12.6	30,958
トレンダーズ	—	7.5	10,800
リクルートホールディングス	14.6	13	45,955
ペイカレント・コンサルティング	1.4	13	72,150

銘柄	期首(前期末)	当 期 末		
		株 数	株 数	評 価 額
		千株	千株	千円
リロググループ		15	12.5	27,200
合 計	株 数 ・ 金 額	565	566	2,347,034
	銘柄数<比率>	60	59	<97.7%>

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注) 評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

○投資信託財産の構成

(2023年3月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
株式	2,347,034	97.0
コール・ローン等、その他	73,443	3.0
投資信託財産総額	2,420,477	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2023年3月10日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	2,420,477,289
コール・ローン等	54,305,311
株式(評価額)	2,347,034,450
未収入金	17,788,128
未収配当金	1,349,400
(B) 負債	18,648,997
未払解約金	18,648,944
未払利息	53
(C) 純資産総額(A-B)	2,401,828,292
元本	1,545,258,972
次期繰越損益金	856,569,320
(D) 受益権総口数	1,545,258,972口
1万口当たり基準価額(C/D)	15,543円

<注記事項>

- ①期首元本額 1,521,014,082円
 期中追加設定元本額 106,898,853円
 期中一部解約元本額 82,653,963円
 また、1口当たり純資産額は、期末15,543円です。

②期末における元本の内訳(当親投資信託を投資対象とする投資信託ごとの元本額)

三菱UFJ スタイルセレクト・グロースファンド	886,699,081円
三菱UFJ スタイルセレクト・ブレンドファンド	658,559,891円
合計	1,545,258,972円

○損益の状況 (2022年9月13日～2023年3月10日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	12,967,699
受取配当金	12,975,065
受取利息	260
その他収益金	3,530
支払利息	△ 11,156
(B) 有価証券売買損益	61,056,851
売買益	179,677,043
売買損	△118,620,192
(C) 当期損益金(A+B)	74,024,550
(D) 前期繰越損益金	778,961,610
(E) 追加信託差損益金	47,187,662
(F) 解約差損益金	△ 43,604,502
(G) 計(C+D+E+F)	856,569,320
次期繰越損益金(G)	856,569,320

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) (E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
 (注) (F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。